

氏名（本籍）	周 雯婷（ 中国 ）		
学位の種類	博 士（ 理学 ）		
学位記番号	博 甲 第 7119 号		
学位授与年月日	平成26年 7月25日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	生命環境科学研究科		
学位論文題目	A Geographical Study on the Formation and Transformation Processes of Japanese Enclaves in Shanghai (上海における日本人集住地域の形成過程に関する地理学的研究)		
主査	筑波大学教授	理学博士	山下 清海
副査	筑波大学教授	博士（理学）	松井 圭介
副査	筑波大学教授	理学博士	村山 祐司
副査	筑波大学准教授	博士（理学）	堤 純

論 文 の 要 旨

海外在留日本人に関する従来の研究においては、日本人の属性という社会的側面から追求したもの、及び日本人の居住区や日本人対象の諸施設という空間的側面から追求したものに分けることができる。しかし、これら社会的側面及び空間的側面の両面から海外の日本人集住地域の研究を行った研究はほとんどない。また、海外在留日本人に関しては、欧米の先進国や新興工業国に関する研究はあるものの、在留邦人が多い中国を対象とした研究蓄積は乏しい状況にある。そこで、本研究では上海における日本人集住地域の形成過程を解明することを目的としている。2012年の中国在留日本人は150,399人であり、このうち38.2%（57,458人）が集中する上海は、在留日本人の人口規模では、ロサンゼルス都市圏に次いで世界第2位の都市である（日本外務省、2013）。

本研究では、日本人集住地域の形成過程を空間的側面と社会的側面の両面から分析を行う。空間的側面では、日本人向けの住宅地及び生活関連施設の集中に着目する。一方、社会的側面では、日本人の居住パターンと日本人の社会的属性の関係を分析する。この両面を考察することによって、日本人集住地域の形成過程を明らかにすることを試みる。まず、日本人集住地域の空間形成の把握を行う。日本人向けの住宅地及び生活関連施設の分布に加えて、それらの経年変化に注目することによって日本人集住地域の空間形成を把握する。次に、日本人の居住パターンを分析する。在留日本人を職業別に類型区分し、社会経済的属性が異なる日本人の居住パターンを考察する。最後に、日本人集住地域が形成される要因について検討する。

本研究を通して明らかになった成果は、以下のとおりである。

上海における日本人集住地域は、1993年には古北地区のみであったが、2013年には古北地区、浦東新区、徐家匯・淮海路地区、中山公園・静安寺地区、中春路地区という5地区に増加した。これらの中で、古北地区と浦東新区が、日本人の集住地として最も重要である。

古北地区における日本人集住地域は、1990年代に中国の外国人住宅地への外国人の強制入居が進められたことによって形成された。2003年以降、外国人政策の緩和に伴い、古北地区における日本人が居住する空間

的範囲は拡大し、日本人向けの生活関連施設も増加した。また、中国の経済政策と日系企業の海外戦略の変化に伴い、日本人の属性は、駐在員及びその家族という単一の属性から、駐在員及びその家族に加え、現地起業者、現地採用者なども加わり多様な属性となった。これに伴い、その居住パターンは日本人が他の外国人と混在する形態から日本人のみが集住する形態へ、さらに日本人内部で住み分けが起こるといった形態へ変化した。以上の形成過程から、古北地区における日本人集住地域は、中国特有の計画形成型の構造を有しており、居住機能と商業機能が相互に強く結合していることが明らかになった。

一方、中国の外国人居住政策に影響されていない浦東新区における日本人集住地域の形成は、2000年代以降に中国及び上海市の経済政策の転換から日系企業が集積していることと関わっている。日系企業の集積は日本人の急増をもたらした。こうした背景の下、日本人市場を目指す日系不動産企業が日系企業と業務提携し、日本人駐在員の入居を目的としたマンションを建設した。これによって、日本人が集住可能な住宅地が形成され、その発展に伴って日本人集住地域という様相が現れた。しかし、浦東新区では現地起業者が少なく日本人向けの生活関連施設の展開が不十分であり、浦東新区における日本人集住地域においては、商業機能と居住機能の結合が弱く、浦東新区は居住空間としての性格が強い。

上海における日本人集住地域の形成要因については、外的要因と内的要因に分けることができる。外的要因としては、中国の外国人政策や外国人に対する居住地の制限などが、日本人集住地域の形成に大きな影響を与えた。内的要因としては、日系企業の上海進出に伴って増加した日本人の居住地は、日系企業が進出した場所に左右され、日本人向けの生活関連施設、特に日本人学校の存在は当該地区への日本人の集住を誘引した。

審 査 の 要 旨

海外における日本人集住地域の形成過程については、これまで学術的な解明は十分なされてこなかった。特にアメリカに次いで最も多くの日本人が在留する中国で、日本人集住地域がどのようにして形成されたのかについては重要な課題である。中国人留学生である筆者は、高い日本語能力を活かし、上海の日本人集中地域の古北地区と浦東地区の2地域において、非常に詳細なフィールドワークを実施している。在留日本人に関する研究が乏しい主要な理由は、関連の統計データが乏しいことである。これに対して、筆者は、在留日本人に対して詳細なアンケート調査、聞き取り調査などを実施し、同時に中国人側からも調査を行い、一次資料にもとづいて、上海における日本人集住地域の形成過程を解明した点で大きなオリジナリティがある。また、フィールドワークの制約を受けやすく、公表データも乏しい中国において、日本人を事例にした外国人の居住に関する研究成果が得られた点でも、エスニック地理学や都市社会地理学の研究に寄与する貴重な成果であり、博士論文として十分な価値があることが認められる。

平成26年6月5日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもとに論文の審査及び最終試験を行い、本論文について著者に説明を求め、関連事項について質疑応答を行った。その結果、審査委員全員によって合格と判定された。

よって、著者は博士（理学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものとして認める。